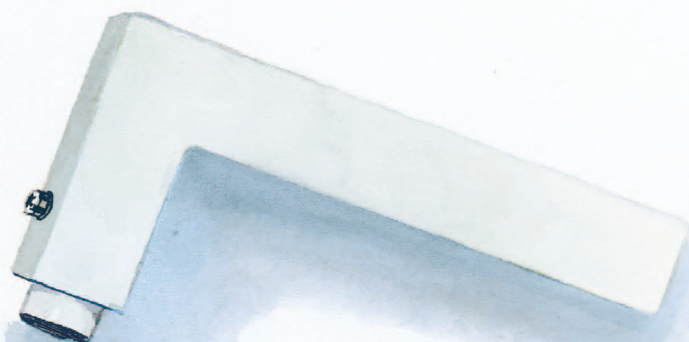
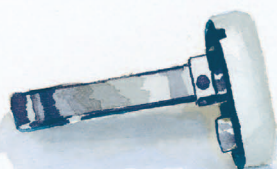




WEST
3rd

FIRST
ANNIVERSARY
JOURNAL



CONTENTS

- p.06 LIMITED EDITION WEST 3rd MATTE WHITE
- p.08 DIALOGUE 01 谷尻誠×馬場正尊
- p.12 DIALOGUE 02 倉本仁×長坂常

WEST 3rd FIRST ANNIVERSARY JOURNAL

WEST 3rd は昨年 の 9 月 にレバーハンドルなど扉周りの製品を中心に発表し、11 月にはタオルバーやトイレットペーパーホルダーなどの水周り金物を発表しました。最初の発表から 1 年が経ち、すべての製品のデリバリーを開始しています。このブランド発表 1 周年を記念して、特別仕様の WEST 3rd を数量限定で発売します。

また、記念企画として WEST 3rd「zero」「warm」の各デザイナーが建築金物をテーマにした対談を行い、その様子を収録しました。「zero」のデザイナー・谷尻誠氏は、東京 R 不動産の運営に参加する馬場正尊氏と、ものづくりを起点にこれからのレバーハンドルについて話しました。「warm」のデザイナー・倉本仁氏は、スキーマ建築計画を主宰する建築家・長坂常氏と、プロダクトと建築の設計プロセスの違いについて話しました。

このジャーナルが、皆様のインテリア・建築計画のヒントになれば幸いです。





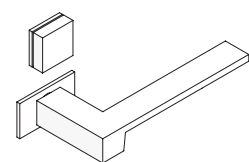
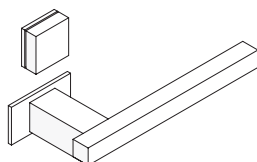
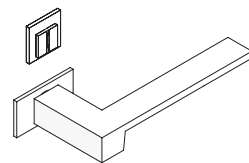
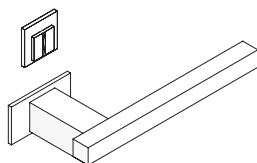




LIMITED EDITION WEST 3rd MATTE WHITE

特別仕様の WEST 3rd はマット仕上げのホワイト。表面に自己修復効果を持たせることで、日常生活でつくようなスクラッチ傷は復元してしまいます。また、この修復効果のおかげでマット仕上げにありがちな艶上がり^{*1}が起これにくく、美しい外観をより長く保つことができます。このマット仕上げのホワイトを、レバーハンドル、戸引手、ドアストッパーに設定しました。^{*1} 使用時に発生する摩擦などでマット仕上げの表面が平滑になり、その部分だけ艶が出てしまう現象。

zero



240 Lever Handle

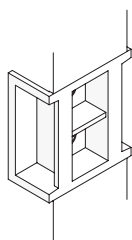
レバーハンドル + 間仕切錠 942
240-A0204-MW
レバーハンドル + 表示錠 942
240-A0208-MW

¥9,800-

241 Lever Handle

レバーハンドル + 間仕切錠 942
241-A0204-MW
レバーハンドル + 表示錠
241-A0208-MW

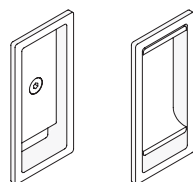
¥9,800-



442 Flush Pull

戸引手
442-N0002-MW

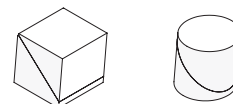
¥2,900-



443 Flush Pull Lockup type

戸引手 間仕切錠タイプ
443-N0002M-MW

¥6,900-



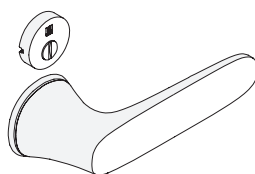
27D Door Stopper Square 28D Door Stopper Round

ドアストッパー スクエア
27D-N00FL-MW
ドアストッパー ラウンド
28D-N00FL-MW

¥1,700-

※レバーハンドルは、内装用間仕切錠もしくは表示錠のみの販売になります。空錠がご入用の際は、間仕切錠（もしくは表示錠）をオーダーいただき、ハンドルと錠ケースセットのみをご利用ください。
※対応ドア厚や切欠図など、製品の詳細情報は WEST 3rd カタログ、もしくはホームページをご確認ください。

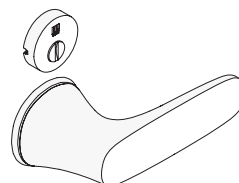
warm



242 Lever Handle

レバーハンドル + 間仕切錠 945
242-A0204-MW
レバーハンドル + 表示錠 945
242-A0208-MW

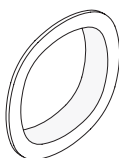
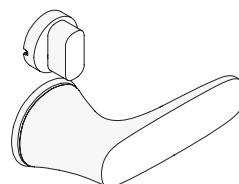
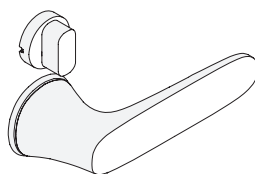
¥9,800-



243 Lever Handle

レバーハンドル + 間仕切錠 945
243-A0204-MW
レバーハンドル + 表示錠 945
243-A0208-MW

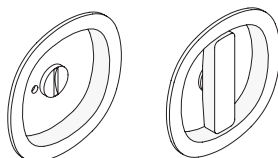
¥9,800-



445 Flush Pull

戸引手
445-N0002-MW

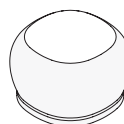
¥2,000-



445 Flush Pull Lockup type

戸引手 間仕切錠タイプ
445-N0002M-MW

¥5,500-



29D Door Stopper

ドアストッパー
29D-N00FL-MW

¥2,400-

※レバーハンドルは、内装用間仕切錠もしくは表示錠のみの販売になります。空錠がご入用の際は、間仕切錠（もしくは表示錠）をオーダーいただき、ハンドルと錠ケースセットのみをご利用ください。
※対応ドア厚や切欠図など、製品の詳細情報は WEST 3rd カタログ、もしくはホームページをご参考ください。

DIALOGUE

01

MAKOTO TANIJIRI × MASATAKA BABA



建築家

谷 尻 誠

×

建築家

馬 場 正 尊

必要な機能だけが美しく、空間に溶け込むようなシンプルな形状が特長の「zero」シリーズ。そのデザインを手がける建築家・谷尻誠氏は、建築のみならず、トークイベントなどの出来事も設計している。また、リノベーションや不動産業などを中心に、建築をとりまくものごとの価値を再提案する建築家・馬場正尊氏も、出来事から広い意味でのものづくりまでを活動領域としている。そんなおふたりに、「zero」が持つ魅力についてお話いただいた。

状況からプロダクトを考える

馬場：「zero」を一目見て、建築家がつくったプロダクトだなと感じました。机に置いて見てみると、まるで建築のようですね。このままレバーハンドルを巨大化させても、建築としての秩序を保っているのではないかと思います。

谷尻：ありがとうございます。確かに、建物のようにも見えますね(笑)。このレバーハンドルは、「建築家として、空間の中でもものをどのように存在させるかを考えてください」というお題をいただき、初めてデザインしたプロダクトです。空間に溶けるようなイメージから、まずは、シンプルとは何かと考えたんです。当初は、とにかく、小さく、薄く、細いものを求めてしまい、プロトタイプでの段階では、すべて実現不可能なものばかり提案していましたね。

馬場：そうですね。建築をつくる視点で考えると、できるだけ要素を削ぎ落とすことで、極端に美しくしたり、存在感を消したり、強く折ったり……という衝動にかられてしまう気持ちはわかります。

谷尻：ただ設計部の人たちとの打ち合わせを重ねていくごとに、押さえるべきポイントがわかるようになっていきましたね(笑)。また、レバーハンドルには、建具という敷地があるのだと考え、敷地と建物の関係を考えることと一緒に気づいたんです。建築を小さくしても風景に溶けるわけでは

ないし、また異なる視点からアプローチした方がいいだろうと思い、今の形へとシフトしていきました。

馬場：敷地と建物の関係とおっしゃいましたが、まさにその感覚がありますね。スケールアップしても成立している形のただけで、あくまでもプロダクトであるという点に不思議な感覚がありますね。

谷尻：今まで建築をつくるために、建築以外のことを考えることが多かったのですが、今回のプロダクトについても同じで、既存のレバーハンドルからものごとを考えるのではなく、それが使われている状況や人との関係性について精査していく時間がほとんどでした。そこから形を見いだしていったので、より形状にも強度が生まれたのだと思います。

馬場：世の中に何かを発信するとき、現実をゴロリと動かす、決定的な力を持っているのはやっぱりものだったりする。ただ、ものの形だけを考えるのもダメで、そこに出来事や思考をどう生み出すか。形状によってつけて考えていく感覚は、大切にしたいですね。

ものの背景にあるストーリー

馬場：谷尻さんがデザインされた「zero」は、主に個人住宅の方が選ばれていると聞きました。僕も建築金物を選ぶ際には、なるべく



空間や建物と調和するように、シンプルなものを選ぶようにしているんです。またその逆に、プロダクトデザイナーは、マスに対して常にメッセージを発する訓練をされており、ディベロッパーや顔の見えづらい相手に対して支持を得やすい。「warm」はそういった要望にも対応できるデザインですね。

谷尻：倉本さんのプロダクトを見ていて、どのような思考プロセスでこの形状が導き出されたのか、すごく興味を持ちました。このプロダクトが持つ特長を、雰囲気や身体的な言葉で理解できるように考えられていて、形状の背後にあるストーリーを汲み取りやすい。そういう点が、プロダクトデザイナーの職能として、常に社会と関係を持っている部分なのかなと思いましたね。すごく感覚的ではあるのですが、触ってみるとそれに納得できるものの強度があります。

馬場：たしかに、頭と身体どちらかで考える場合、圧倒的に身体で考える方がわかりやすい。レバーハンドルも触ってみて気づくことが多いです。一方で、谷尻さんのハンドルは、設計プロセスが想像できるので「説明しろ」と言われたら説明できるような気が

谷尻誠 / Makoto Tanijiri

1974年生まれ。2000年、建築設計事務所 Suppose design office 設立。住宅、商業空間、会場構成、ランドスケープ、プロダクト、アートのインスタレーションなど、仕事の範囲は多岐にわたり、広島・東京の2カ所を拠点に、多数のプロジェクトを手がける。



沼袋の集合住宅



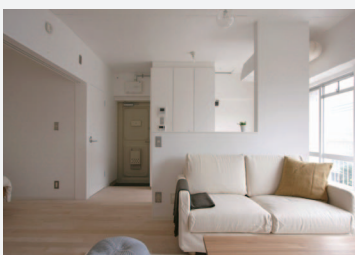
八木の家

馬場正尊 / Masataka Baba

1968年生まれ。早稲田大学大学院建築学科修了。博報堂、早稲田大学博士課程、雑誌「A」編集長を経て、2002年Open Aを設立。都市の空気を発見するサイト「東京R不動産」を運営。建築設計を基軸に、メディアや不動産などを横断しながら活動している。



TABLOID



観月橋団地再生計画

します。それほどシンプルで、ハンドルの機能がそのまま形状になったかのような素直さがある。一見、まったく逆の方向性を持つシリーズがあることで、それぞれの魅力が際立ってくるように思います。

谷尻：ふたつのシリーズがあって、お互いの関係性が生まれていますよね。これからの時代は、ものの個性がしっかりとストーリーとして見える仕掛けが必要です。例えば、さまざまなメディアを使って、ストーリーをプレゼンテーションできる状況を増やすことで、その場における言葉や伝達の仕方、ものの関係性に価値が付加されていくのだと思います。

自分たちでハンドルを選ぶ時代

馬場：最近、「東京R不動産」の延長で「R不動産 toolbox」というプロジェクトを始めました。これは、建築の金物や部材、塗料、壁紙などを取り揃えたセレクトショップみたいなもので。「東京R不動産」にリノベーションをしたいと相談に来るお客さんはたくさんいるんですよ。だけど、みんなプランを相談しているうちに、僕たちが脱帽してしまうほどいろんなアイデアが浮かんできて。そういうセンスの良い人が多いですよ。

谷尻：そうですね。センスの良い人なんて、デザイナーに限らずゴロゴロいます。

馬場：だけど、そういう人たちの多くは、自分でリノベーションに取り組もうとしても、まず、天井を落とすのにどの工務店に頼んでいいのかわからない。日本では、企業だけしか取引を行わないような流通形式が未だにあるんですね。ただ、それを変える「R不動産 toolbox」的な動きが一般的になれば、今の情報伝達や流通の仕組みが大きく変わるはずです。そう考えると「zero」のように熟考されたデザインが、今まで以上に必要とされる時代がくるかもしれない。

谷尻：そうなったときに、ものとの関係性の中にメッセージがあると、例えば「それを使ってみたい、触ってみたい」という興味が生まれますよね。「安いし便利」よりも少し不便かもしれないけれど、「使ってみよう」という気持ちが強くなる。

馬場：少しずつ消費しなくなっているからこそ1個を選ぶことに慎重になるし、どうせ1個選ぶなら自分で納得したもののが欲しい。今後は、見えない消費者を想像してつくる時代から、今まで流通に乗らなかった建築金物のような商品を消費者が直接選んで使う時代になっていくのだと思います。自分が住む空間、経験する空間を、自分自身で編集してつくっていくような時代がやってくる気がしますね。

谷尻：そう思います。これからは、主体性がキーワードになってくるでしょうね。例えば、amazonで本を買うときなど、事前に本の雰囲気をつまみかきで掴んで、理解したつもりで買っている。それは建築金物においても一緒で、そのもののストーリーがフックになることがあれば、急に欲しくなるんですよね。

馬場：その状況のなかで、これからは、はっきりと意思を持ってデザインされたものが、共感と共に選ばれることが一般的になるでしょうね。今は、メッセージを発しているデザインとパーツが、メッセージを求めている人の元に届く回路がほとんど無い状態です。流通の仕組みが変わることで、レバーハンドルを含む建築金物を選ぶような時代にシフトしていくのだと思います。





240 Lever Handle
レバーハンドル



940 Cylinder Thumbturn
シリンダーサムターン



46M Towel Ring
タオルリング



241 Lever Handle
レバーハンドル



942 Emergency Thumbturn
エマージェンシーサムターン



48M Towel Bar
タオルバー



247 Door Knob
ドアノブ



442 Flush Pull
戸引手



49M Towel Bar
タオルバー



953 Push Pull Handle
プッシュプルハンドル



443 Flush Pull Lockup type
戸引手 間仕切錠タイプ



44M Toilet Paper Holder
トイレトーパーホルダー



58P/59P Furniture Knob
ファニチャーノブ



27D/28D Door Stopper
ドアストッパー

zero

草木は土に根を張り太陽に向かって伸び枝分かれし葉を広げる。その構造は無駄が無く機能から生まれるフォルムは誰の目にも美しく映ります。足し算のない「0」のかたちと、伸びるほどに細くなる幹や、枝分かれする際の少しのアールなど、自然界の美しい構造にならったほんの少しの操作。必要な機能だけが美しく、どのような空間にも溶け込むデザインしないデザインの提案です。



60P/61P Furniture Knob
ファニチャーノブ

DIALOGUE

02

JIN KURAMOTO × JO NAGASAKA



プロダクトデザイナー

倉本 仁

×

建築家

長坂 常

優しさという記号をデザインする

長坂：こうやって実際に「warm」のレバーハンドルを触ってみると、すごく握りやすいんですね。それに、角が立たないようなデザインになっていますから、これを扱いたいというディベロッパーは多いのではないのでしょうか。また、改めてお聞きしたいのですが、「warm」はどのようなコンセプトでつくられましたか？

倉本：「warm」をつくる上で僕に与えられたテーマは「ものから発信して空間へと向かっていくこと」でした。そんな流れから、人や空間に与える印象を大切にしたいと考え、物質的な存在感よりも「優しい感じ」や「朗らかな感じ」などの雰囲気そのものをデザインしたいと考えました。

長坂：なるほど。建築家は、できるだけ空間に溶け込むようなものを選ぶ傾向にあります。このレバーハンドルは、ドアのデザインを想像させるような個性がありますよね。それも興味深い。レバーハンドルから建築を既定していくような、ある種の力強さがあります。

倉本：レバーハンドルがドアを決めるというのは、おもしろいですね。ただ、おっしゃるように建築の一部として調和することが求められるプロダクトですから、少し主張が強かったのかもしれない。長坂さんがレバーハンドルをデザインするとしたら、どんなものをつくりますか？

柔らかな曲線で構成され、ハンドルの絶妙な握り心地が特長の「warm」シリーズ。その人なつこい佇まいから生まれる雰囲気そのものをデザインした、プロダクトデザイナーの倉本仁氏。そして、素材の質感を生かし、そのものの美しさを引き出すような建築やプロダクト、インテリアなどを手がける建築家・長坂常氏。プロダクトと建築というスケールの異なるものを設計するおふたりに「warm」に触りつつ、その設計プロセスの違いについてお話をいただいた。

長坂：話をしながら思ったのは、できるだけオーソドックスな形で、ディテールにはこだわりたいと思います。もしくは、それよりもドアを開けたときの喜びをデザインするかもしれない。ただ、使う側はこちらが意図したことを忠実に受けて、そこで立ち止まらなくていいと思うんです。「言われてみたら、うちのレバーハンドル良いかも」くらいのレベルで、人の家に行ってようやくその魅力がわかると良いなと思いますね。

倉本：言われて初めて気づくというようなものの良さをどう伝えるか考えたときに、コンビニで売っている水を思い浮かべたんです。コンビニで水を選ぶとき、厳密にはパッケージやボトルのデザインを意識しませんよね。ペットボトルのデザイン自体が判断基準となっているわけではなくて、そこにデザインが潜んでいるくらいのレベルで実は影響している。そんなプロダクトをつくりたいなと思いますね。

ディテールを積み重ねること

長坂：僕もプロダクトと呼ばれるようなものをつくることもあるのですが、プロダクトデザイナーと仕事をしていると、スケール感の違いを明らかに感じますね。建築は、どちらかというと幾何学的な形状に閉じていってしまう可能性がある。一方でプロダクトデザイナーは、良い意味でも悪い意味でも、僕がこれ以上細かいものに善し悪しの



判断をできないと思う領域に入り込んで深めていく作業をしていますよね。

倉本：考え方やアプローチが異なる部分というのは、お互いあるかもしれませんね。「warm」は、ディテールの集合体で雰囲気をつくっています。外形の細かい形飾を積み重ね、削っては精査するという作業を繰り返してこの形に至っているんです。もっと大きなスケールで設計を行う建築家にとっては、かなり細かいところの判断をしているように見えるのかもしれない。

長坂：プロダクトデザイナーの形状に対する目線の配り方は、横目で見ていくくらいしますね。意味や記号を自分で開発していかないと、その差異が出てきませんから。

倉本：僕も毎回悩んでいるのですが、結局はもののディテールの積み重ねが調和を見つけたときに全体としての強い記号性が表出してくるんじゃないかなと考えています。

長坂：僕が、頭の中で形を想像するときに、普段、慣れ親しんでいるデザインの延長ではつくり出せない幾何形態が確かにあって。

倉本仁 / Jin Kuramoto

1976年生まれ。金沢美術工芸大学卒業後、家電メーカー勤務を経て、2008年JIN KURAMOTO STUDIOを設立。家具や家電製品、日用品等の製品開発を中心に国内外のクライアントにデザインを提供している。IF Design 賞、Good Design 賞等、受賞多数。



arflex armchair / JK



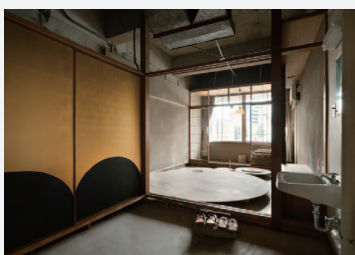
naft 壁掛けフック / Sprinkle

長坂常 / Jo Nagasaka

1971年生まれ。1998年東京芸術大学美術学部建築学科卒業。同年、スタジオスキーマ（現スキーマ建築計画）開設し、ギャラリーなどを共有するコラボレーションオフィス「happa」設立。2007年事務所を上目黒に移転。簡単な原理を誰も想像できない方法で表現した作品を多く発表。



Aésop Aoyama



LLOVE

それは「warm」のハンドルにも言えることですが、なぜその形になったか、自分の口で説明できないモックアップをたくさん見ればその部分についての判断はできると思うんですが、ただ、それが無いところでは、今座っているこのイスのうねったような形態がなぜこの形なのか、プロダクトデザイナーのように判断し、言語化することは非常に難しい。

倉本：幾何形態では判断しづらい、うねりみたいなものも僕は記号のひとつとしてとらえられると思っていて。例えば、手塚治虫は「漫画は記号で、絵ではない。人の後ろに線3本書いたら、走り出すから」というようなことを言っています。ここでは、3本線の形状が記号として作用しているのではなくて、その線が置かれた位置や状況、文脈の組み合わせが記号性を生んでいる。プロダクトにおいてはディテールの積み重ねで形状をつくることで誰もがわかるような記号になり得るのだと思います。

これからのスタンダードをつくる

長坂：レバーハンドルのデザインにおいて、スタンダードなものを考える上で、ひとつ問題だと思うのは、使う側が「これは良いハンドルだ」という適切な判断をできないことです。個人宅のオーナーは、基本的に一生のうち1回くらいしかハンドルを選ぶ機会ってないと思うんです。そういう意味では、その1回の選択が本当に適切な判断かどうかは疑わしいですよ。

倉本：プロダクトをデザインする者として話すと、基本的には不特定多数に向けて商品をつくる場合が大半なんです。だから、特定の誰かのベストをつくるという構築方法とは違うのかもしれません。20万個売れる商品をつくる場合において、それを使う相手が具体的に見えるかという難しい。ただ、「かくあるべき」というビジョンを明確に持ち、そこに向けて徹底的にものづくりをしていくという姿勢が成功した場合、多数の共感を得るプロダクトが生まれます。逆に

言うと、根本のビジョンの構築に失敗した場合、市場に出るまでその失敗に気づきにくいという側面もあります。

長坂：工業デザインの難しいところですね。建築の場合は、できるだけリアリティある人たちを設定した上で、そこから広がっていく「みんな」であればわかるけれど、漠然とした「みんな」に向けた建築では何の意味も持ちえない。「みんなって誰のことだ」という議論になりますよね。

倉本：僕たちが判断する時も、「みんな」という言葉を使うのは避けていますね。「これが一般的だから」という理由で決めてしまうと結局、誰のためでもないものが出来上がってしまうんです。それよりも、少なくとも自分はこれが良いと感じている、その確実性は大事にしたいところ。

長坂：そうですね。ただ、レバーハンドルって、日本に導入されて、まだ何十年も経っていないんですよ。日本に西洋の建築文化が入ってきてからのことなので。そう考えると、建築全般に言えることですが、価値判断がまだ定まりきらない状態にあるんじゃないかと思うんです。だから、レバーハンドルにおいても本当の意味で定番だと呼ばれるものが出てくるのは、きっとこれからなんですよ。

倉本：そうかもしれませんね。これから「私はこのレバーハンドルが好き」とそれぞれがジャッジできるような仕組みや批評的な眼を育てていくような環境がつくっていったらおもしろいですね。僕たちプロダクトデザイナーは、逆に、そういう新しいスタンダードになるものを生み出すべく模索しながら、ものづくりに励んでいくことになるのだと思います。





242 Lever Handle
レバーハンドル



944 Cylinder Thumbturn
シリンダーサムターン



47M Towel Ring
タオルリング



243 Lever Handle
レバーハンドル



945 Emergency Thumbturn
エマージェンシーサムターン



50M Towel Bar
タオルバー



248 Door Knob
ドアノブ



445 Flush Pull
戸引手



954 Push Pull Handle
プッシュプルハンドル



445 Flush Pull Lockup type
戸引手 間仕切錠タイプ



51M Support Bar
サポートバー



62P/63PFurniture Knob
ファニチャーノブ



45M Toilet Paper Holder
トイレトーパーホルダー



29D Door stopper
ドアストッパー

warm

人間や動物に性格があるように、もちろんモノにも性格がある。そしてモノから発せられる、そのぼんやりとしたニュアンスは空間に大きな影響を及ぼします。「warm」という名前を冠したこのシリーズがもつ温かく優しい個性。建築と寄り添う。空間と寄り添う。そして、人と寄り添う。そんな個性と調和の有り様をデザインの源としています。

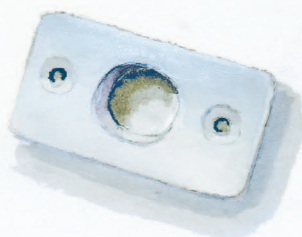
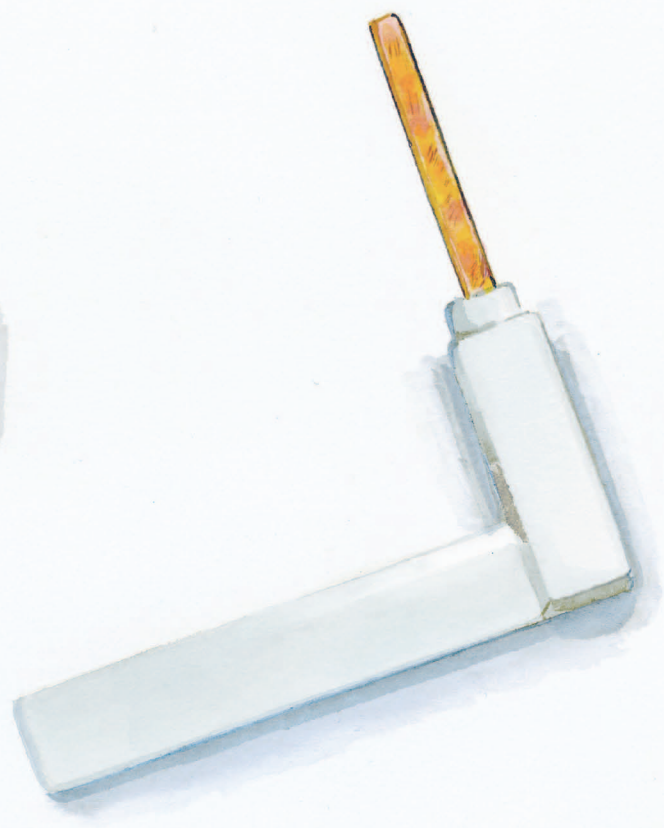


WEST 3rd

Agaho、gg に続く 3 番目のオリジナルブランドが「WEST 3rd (サード)」です。新しいブランド名の「3」には、3 番目のブランドであることに加えて、古代ローマの建築家が提唱した建築の 3 要素、用・強・美を兼ね備えたプロダクトを目指す意思が込められています。

WEST 3rd は現在の市場状況を考慮した価格設定と豊富なカラーバリエーションが特徴です。これによりコストや色の相性を気にすることなく、幅広い案件に提案できるようになりました。それでいて、玄関錠から内装・外装のレバーハンドル、タオルバーなどの水周り金物までをラインナップしているのはこれまでと変わりません。キーヘッドまでよくデザインされた玄関錠も揃うのは、ロックメーカーのウエストだから実現できるトータルコーディネートです。

優れたデザインを適正価格で市場へ提供することで建築金物のデザインを啓蒙し、居住空間のレベルアップと活性化に貢献していきます。そのデザインはプロダクトにとどまらず、建築における金物の存在をデザインしていきます。



WEST CORPORATION

HEADQUARTERS

3-18-3 SHIMENO, NEYAGAWA-CITY, OSAKA, 572-0077 JAPAN.
TEL : 072-826-0323 FAX : 072-838-4542

TOKYO OFFICE / SHOW ROOM

5-11-15 MINAMI-AOYAMA, MINATOKU, TOKYO, 107-0062 JAPAN.
TEL : 03-3499-9260 FAX : 03-3499-9263

OSAKA OFFICE / SHOW ROOM

4-3-22 IMABASHI, CHUOKU, OSAKA-CITY, OSAKA, 541-0042 JAPAN.
TEL : 06-6221-5777 FAX : 06-6221-5888

株式会社ウエスト

本社 / 営業部

572-0077 大阪府寝屋川市点野 3 丁目 18 番 3 号
TEL : 072-826-0323 FAX : 072-838-4542

東京オフィス / ショールーム

107-0062 東京都港区南青山 5 丁目 11 番 15 号
TEL : 03-3499-9260 FAX : 03-3499-9263

大阪オフィス / ショールーム

541-0042 大阪府大阪市中央区今橋 4 丁目 3 番 22 号
TEL : 06-6221-5777 FAX : 06-6221-5888

<http://3rd.west-lock.co.jp>

<http://www.west-lock.co.jp>

E-mail: info@west-lock.co.jp